

研究実践ワークショップ、統計ハンズオンセミナー

セッション詳細

会 員(1,000 円): 4/2 (火) 10:00~9/6 (金)17:00 **先行予約受付!**

非会員(2,000 円):4/16 (火) 10:00~9/6 (金)17:00

◆ 研究実践 WS1 9/28(土)14:30-16:00・定員 50 名

文献検索の第一歩 ～ 検索ワードの探し方・決め方

企画責任者：佐田 憲映 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学

対象者：初学者

ワークショップの学習達成目標：クリニカルクエスションに対する系統的な文献検索のためのワードを設定できる。

ワークショップの概要：まだ臨床研究を始めて間もない方、文献検索がこれから必要となってくる方など初学者が対象です。ある程度文献検索をしている方には少し物足りないかもしれません。

事前学習で、「系統的検索とは何か」、「統制語とは何か」、「Automatic Term Mapping とは何か」について学習します。当日のワークショップでは、事前学習の内容を簡単に復習し、ハンズオンで統制語検索を行います。次にフリーワード検索や引用検索について解説し、その後ハンズオンにて実際にフリーワードを探します。最後に目的とする検索が行われていることを確認します。

持参物：無線 LAN が使用できるパソコンを各自ご持参下さい。Wi-Fi 環境も必要で、会場に Wi-Fi を用意しておりますが利用者が一気にアクセスした際にダウンする恐れもあるため、個人のモバイル Wi-Fi をお持ちの方は持参頂けますと幸いです。

◆ 研究実践 WS2 9/28(土)14:30-16:00・定員 50 名

知ると楽になるデータ整理、最短を学ぶ! ～Data Wrangling の第一歩～

企画責任者：徳増 裕宣 大原記念倉敷中央医療機構臨床医学研究所

対象者：初学者

ワークショップの学習達成目標：元のデータから、統計解析を行うためのデータセットを作成し、効率よく解析作業が行える下準備を行えるようになる。

ワークショップの概要：ICT の普及に伴い、医療分野でもビッグデータの活用が始まっている。今後はデータの標準化やデータ同士の連携により、様々な医療サービスの見える化が進むと考えられる。

まずは、現在の医療データベースの特徴に関する講義を 15 分ほど行い、これから世の中が向かっていく道を紹介する。また、臨床研究を行う際に最も時間を要するのは、データの抽出とそのクリーニング作業であり、本ワークショップでは、データベース構築に必要な正規化といった基本的知識の講義も行い、データの問題を理解し、理想形を描くことができることを目標とする。さらに、実際にエクセルを用いて発見した問題点を修正する技術も習得してもらう。具体的には sum や average といった初歩的な関数から vlookup や if 関数など、知っておくと便利な関数まで網羅する。このような作業を行い、知識を身に着けることでデータを取得する時点でいかに最終形を意識した形で格納できるかという意識もはぐくまれ、医療のデータの質向上に向けた、大きな役割を担う人材を育成できると考える。

参加者が事前に行う作業は想定していない。当日、データベースを扱うために必要なエクセルの知識に関するハンズオンセミナーを行うことを想定している。

持参物：パソコンを各自ご持参下さい。

◆ 研究実践 WS3 9/28(土)16:15-17:45・定員 50 名

論文の批判的吟味～研究計画と情報収集～

企画責任者：竹内 正人 京都大学大学院医学研究科薬剤疫学分野

対象者：初学者から中級者（専門領域、職種を問わない）

ワークショップの学習達成目標：医学論文の批判的吟味とは何か、そしてどのように行うかの体系を講義とグループワークを通して習得する。

ワークショップの概要：研究計画を立てる上で、これまで何が分かっていて、何が分かっていないのか先行研究から情報収集を行う際、得られた論文の批判的吟味を行い、論文の内容が適切かを判断することが極めて重要である。しかし医療者が、読むべき論文の選び方、読み方について系統的に学ぶ機会が少ないのが現状と思われる。

本ワークショップでは、医学論文の批判的吟味に関する講義とグループワークを行う。

グループワークでは、論文に書かれている対象や方法が妥当か、結果が信頼できるかについて、事前に論文を読むためのチェックポイントを提示した上で、論文をじっくり読みながら作業を進める。最後に、講師がポイントに沿って論文を解説する。論文を読み始めたばかりの方、読み方に自信のない方、今までに論文の批判的吟味に関する講義を受けたことのない方の参加を想定している。グループワークでは実際の医学論文を用いるが、題材については特定診療科の専門知識がなくても読めるよう、テーマに配慮する。参加者が本ワークショップを通して、論文を批判的に読むとはどのようなことなのかを実感でき、その体系を習得できることを目標とする。今後文献を読みそこから得られた知識を医療現場において役立てられる、その足がかりとなれば幸いである。

準備として事前に論文を配布し、予習範囲を指示する。また、コンピュータは使用しない。

◆ 研究実践 WS4 9/28(土)16:15-17:45・定員 60 名

カルテを見ずに DWH を使おう！～Data Wrangling の第二歩～

企画責任者：片岡 裕貴 兵庫県立尼崎総合医療センター

対象者：中級者以上が対象、職種は問わない。また、Python の基礎知識はなくても参加は全く問題ないが、臨床研究を実施した経験があることが望ましい。特に、検査データ等を手入力して苦労した経験のある方を歓迎する。

ワークショップの学習達成目標：参加者が Data Warehouse、もしくは部門データを使って、自施設のデータから、解析用データシートを作成することができるようになる。

ワークショップの概要：2018 年に施行された次世代医療基盤法によって、多数の医療機関から集約したデータベースを用いた臨床研究がやりやすくなってきている。一方で極めて大きな多施設データを扱う前のステップとして、自施設のデータを扱う方法についての教育機会は乏しい。

本ワークショップでは、医療施設で働く参加者が、自施設にあるデジタルデータ（DPC、採血、レセプト、集中治療や化学療法といった部門データ）から、解析用データシートを加工することができるようになることが目標である。

事前課題として、30 分程度の Google Colaboratory を用いた簡単なハンズオンを要する。

当日は、レクチャーと、Google Colaboratory を用いたハンズオンを行う。

持参物：無線 LAN、Google Chrome が使用できるパソコンを各自ご持参下さい。Wi-Fi 環境も必要で、会場に Wi-Fi を用意しておりますが利用者が一気にアクセスした際にダウンする恐れもあるため、個人のモバイル Wi-Fi をお持ちの方は持参頂けますと幸いです。

◆ 研究実践 WS5 9/29(日)10:15-11:45・定員 50 名

QOL をアウトカムとした研究を読み解く

企画責任者：山本 洋介 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学

対象者：初級～中級向け。QOL 評価を用いる全ての職域・専門領域が対象

ワークショップの学習達成目標：1. 先行研究を通じて、QOL をアウトカムとした臨床研究の型を知る。2. QOL 尺度を活用する上での適切な評価方法が設定できる。

ワークショップの概要：

【概要】本ワークショップでは、QOL をアウトカムに設定した先行研究を批判的に読み、その研究の型と適切な評価方法について、グループワークとミニレクチャーで学びます。

【対象】QOL に関心のある全ての職種の方（医療職・企業・行政の方を含む）

【ミニレクチャー】グループワークに先立ち、QOL 尺度に関するミニレクチャーを行います。講義では、先行研究を通じて QOL 尺度を用いたアウトカム設定の型・方法についても概説します。

【ワークショップの内容】5～6 人程度のグループに基づきグループワークを行います。具体的には、指定された先行研究について討議を行い、その QOL のアウトカムとしての設定方法について改善すべきポイントを議論します。その際には、①QOL 尺度の選択は適切か ②測定タイミングの設定は適切か ③結果の解釈は適切か などの点から、QOL 尺度をどのように使用すると効果的なものになるかについて議論を深めます。最終的には、グループごとに改善後の QOL を用いたアウトカム設定について、思考の過程とともに発表していただきます。発表後には討議並びに講評の時間を設け、総括を行います。

【コンピュータ使用の有無】使用しない・ハンズオンは設けない

◆ 統計ハンズオンセミナー1 9/29(日)10:15-11:45・定員 30 名

観察研究における準実験デザイン（操作変数法・回帰不連続デザイン）

企画責任者：田栗 正隆 横浜市立大学 データサイエンス学部

対象者：中級者向け

ワークショップの学習達成目標：操作変数法と回帰不連続デザインの概念を理解し、統計ソフトウェア R もしくは SAS を用いて解析を実施できるようになる。

ワークショップの概要：曝露あるいは治療効果を推定する目的で実施される観察研究においては、データ解析時の交絡調整が 1 つの重要な問題となります。伝統的な交絡調整の方法としては、層別解析、マッチング、回帰モデルが挙げられます。また、傾向スコアを用いた方法も頻用されるようになってきています。しかしながら、これらの方法では「未測定の交絡因子が存在しない」という仮定が前提となっており、特にデータベース研究等のレトロスペクティブに実施される観察研究では、成立が難しい可能性があります。これに対して、操作変数法や回帰不連続デザインなどの準実験デザインと呼ばれることのある解析手法では、汎用性は限られているものの、「未測定の交絡因子が存在しない」という仮定を必ずしも必要としないという利点があります。本ワークショップでは、基本集計や回帰モデルなどの標準的な交絡調整を行うことができる中級者を対象に、操作変数法と回帰不連続デザインの解説を行います。また、実際の観察研究を模したデータセットを利用して統計ソフト R によるデータ解析の実習を行います。本セミナーを受講することで、操作変数法や回帰不連続デザインの概念とこれらの方法を使用可能な状況、必要な仮定、実施上の注意点等を理解し、実際に統計ソフトを用いて実行し結果の解釈を行えるようになることを目標とします。

持参物、事前準備：無線 LAN が使用できる PC を各自で持参して頂きます。予め無料の統計ソフト R または SAS をインストールした PC をご持参下さい。後日セミナーに必要なアプリケーションのダウンロード・インストールのお知らせをいたします。また、会場に Wi-Fi を用意しておりますが利用者が一気にアクセスした際にダウンする恐れもあるため、個人のモバイル Wi-Fi をお持ちの方は持参頂けると幸いです。

◆ 研究実践 WS6 9/29(日)13:15-14:45・定員 50 名

これでもう査読依頼もこわくない！チェックリストを用いた系統的査読のすすめ -観察研究編-

企画責任者：大前 憲史 福島県立医科大学 臨床研究教育推進部

対象者：初学者から中級者、職種は不問

ワークショップの学習達成目標：1. 現行の査読システムの枠組みとその問題点を説明できる。 2. 観察研究の論文を査読する際に、評価すべきポイントを3つ以上挙げられる。

ワークショップの概要：

<事前>

当日グループワークで査読作業をするための課題論文1本を読む。

<ワークショップ当日>

- ・ 現行の査読システムに関して、枠組みと問題点、最近のトピックについて解説。
- ・ レポートの質、Risk of Bias、結果の解釈に関するチェックリストについて解説。
- ・ チェックリストを用いた査読作業をグループで行う。
- ・ グループワークの成果をグループごとに発表する。

◆ 研究実践 WS7 9/29(日)13:15-14:45・定員 50 名

費用対効果の使い方

企画責任者：後藤 励 慶應義塾大学経営管理研究科

対象者：費用対効果に興味がある方。専門領域・職域は問いません。これまで費用効果分析・経済評価などの経験がなくても結構です。

ワークショップの学習達成目標：費用対効果を政策や実診療に活かすために注意すべき事、今後研究が必要な分野について理解する。

ワークショップの概要：2019 年度から医薬品及び医療機器の費用対効果評価が始まった。医療技術評価 (health technology assessment: HTA) のプロセスは分析・評価・意思決定の3段階に分かれている。日本でも、分析段階については研究方法についてガイドライン作成が行われており、標準化が進んでいる。一方、費用対効果の研究結果を使って政策的な意思決定を行う段階については、2017, 2018 年度の試行的導入において様々な問題点が指摘され、制度化にあたっていくつか修正された。

本ワークショップでは、ビジネススクールで用いられるケースメソッドを用いて、費用効果分析の結果を解釈し、費用効果以外の医療技術の要素を考慮し意思決定するまでの過程をディスカッション形式で学ぶ。

参加者は事前にケース教材と事前設問が配布されるので予習が必須となる。ワークショップのまとめはレクチャー形式で行う。